

山形の母なる川

# 最上川

vol.26

平成23年 7月25日



## 倫理経営企業の素顔

第3回 上山市倫理法人会 有限会社 田島製作所

写真は田島社長と大場専務

### 目次

鈴木隆一会長 挨拶……………2	女性倫理講演会……………12	モーニングセミナー500回を迎えて(米沢市)…15
単会トピックス(倫理経営講演会)…4	モーニングセミナー研修会……………13	第19回ブナ文化フォーラム……………16
倫理経営企業の素顔(第3回)…8	第3回朝礼コンテスト……………14	編集後記……………16



社団法人 倫理研究所  
**山形県倫理法人会**

# 暑さに負けず、真心の活動を

山形県倫理法人会会長 鈴木隆一

## 1. 暑中お見舞い申し上げます。

7月11日、例年より2週間も早く梅雨が明け、猛暑と節電の夏がやってきました。夏は倫理法人会にとって今年度の有終の美を飾る季節であると共に、9月から始まる新年度の準備の季節でもあります。この夏、県内の仲間が健康で元氣いっぱい活動されますようお願いしています。

## 2. 夏の前半を振り返る

### ① 倫理経営講演会

5～6月、倫理法人会の年間最大の行事である「倫理経営講演会」が各地で開催されました。きびきびした進行や気合の入ったあいさつ、完成度の高い朝礼実演など素晴らしい出来栄で、各倫理法人会が本気で取り組んだことが伝わりました。特に酒田市は希望ホールに394社1231名を集め、倫理法人会の未来を拓く偉業と感じました。各地のみなさまのご努力に心から敬意を表します。

### ② 山形県朝礼コンテスト

6月には庄内最上、村山、置賜の3ブロックで朝礼コンテストブロック大会が開催され、その勝者による県大会が7月5日に開催されました。この行事は倫理法人会が推奨す

る「活力朝礼」を広く社会に普及するためのものです。

最優秀賞を受賞した山形チームは「軽やか、スピード感がある、声が明るい、タイミングが揃っている」、優秀賞の新庄最上チームは「笑顔が良い」、同じく優秀賞の米沢チームは「重厚感があり、ていねい」で、それぞれに優れた所がありました。各チームに個性や特長があるから良いのです。どんな朝礼を目指すかは各倫理法人会、そして各会員企業が自ら考え実現しましょう。まだ朝礼をしていない会員企業はこの夏「活力朝礼」にチャレンジしてみませんか？

### ③ ブナ文化フォーラム

7月9日10日、山形県倫理法人会の伝統行事「ブナ文化フォーラム」が新庄最上倫理法人会の主管で開催され、45名が参加しました。最上地方は巨木が多く、私たちが森の中で見た杉やかつら、ブナの巨木の姿は真に荘厳で、靈気さえ漂っているようでした。

また、仙南倫理法人会から女性3名が参加され、山形県の会員と今後活発に交流したいと挨拶されました。最上地方の大自然のすばらしさと人々の温かさに触れて感動し、生きる喜びを実感しました。

### ④ 女性倫理講演会

7月11日には細川佳代子氏を講師にお迎えして、県女性委員会の主管により「女性倫理講演会」が開催され、庄内からバスで来形された方々を含め150名以上が聴講されました。細川氏は知的障害者のためのスペシャルオリンピックスの活動をいかに日本に普及させてきたか、その体験を情熱的に話され、感動した出席者から質問や感想発表が相次ぎました。健常者と障害者がスポーツを通じて共に幸せになる、というスペシャルオリンピックスの理念に共感を覚えました。

これらの行事に参加されたみなさんが、今後、決意も新たに純粹倫理の実践や倫理経営に取り組まれますよう心から願っています。また、これらの事業を成功に導いた関係者のみなさん、誠にありがとうございました。み



丸山理事長「会長、次のミッションは？」  
鈴木県会長「山形に新単会設立！」

なさんが喜働を実践し成長されたことをともうれしく思います。

### 3. 普及活動の夏

この夏、私は県会長としてこれまで各地の普及活動のお手伝いをする中で、猛暑の日も大雨の日も企業訪問を続けるみなさんの姿に感動してきました。相手の人の幸せを願い、その企業の発展を思うみなさんの心は尊いものです。普及活動に汗を流すことでその思いがさらに深まることを願っています。

純粹倫理は自他共に幸せになるための生活の法則です。倫理の実践を行えば、自分が幸せになります。一方、倫理の普及を行えば、他者が幸せになります。倫理の実践と普及はワンセットの車の両輪なので、倫理の実践をしている多くの会員のみなさんが、次は普及活動に参加されますよう願っています。その結果として平成23年度の山形県普及拡大目標「1450社」を達成できたら、こんなにうれしいことはありません。

### 4. 新倫理法人会を設立する夏

新涼の9月28日、山形県倫理法人会は山形市中央倫理法人会を設立します。実行委員長に伊藤明彦副会長が就任し、実行委員会のメンバーは山形県の役員と既存の山形市・山形市蔵王の倫理法人会から選出された実行委員で構成された混成チームです。会員数が

100社以上であることが設立の必須条件です。これを短期間で達成するため、今までの2倍の人数の方々が通常の2倍のスピードで活動してまいります。山形の暑い夏がさらに熱くなるでしょう。

設立の目的は四つあります。

第一に、東日本大震災後の今、この山形から日本創生の仕事を新倫理法人会設立運動として開始することです。純粹倫理に出会い、喜んで苦難を乗り越える生き方を知ってほしい、そして大震災後の苦難を乗り越えてほしい、そのための活動を今、始めます。

第二に、私たちが長年お世話になってきた山形の経営者の方々にご恩返しをします。私たちの大切な友人知人に純粹倫理を広めることで、みなさんが幸せになってほしいと思います。互いの繁栄、地域の発展を願う心を育てましょう。

第三に、三番目の会を設立することで人材を育成し、長期的発展を図ります。山形市倫理法人会190社、山形市蔵王倫理法人会180社という会員数が示すとおり、今や山形市内の二つの倫理法人会は全国でもトップクラスの実力を持っています。この力をさらに伸ばすために新たな目標を設定します。

第四に、来る10月7日に開催される「山形県倫理法人会設立20周年・1500社達成記念式典」に花を添えたいと思います。喜びが倍加し、未来に向けてさらなる発展を誓い合う

ための大きな励ましとなることでしょう。

### 5. 倫理研究所 新年度の事業方針

6月の総会で「引きつづき『地球倫理の推進』と『日本創生』の二つの目標理念をスローガンとして掲げる。そして東日本大震災で起きた大災害の犠牲者への鎮魂を胸に、『たましいに響く実践・普及に挑む』を基本方針とした諸事業を力強く展開していく」という平成24年度 倫理研究所事業方針が承認されました。また、倫理法人会スローガンは「平成24年度 倫理法人会10万社スローガン、日本創生 企業に倫理を 職場に心を 家庭に愛を、希望の明日を切り拓こう」です。この力強い方針とスローガンに基づき、私たちも平成24年度の理念と方針、実施計画を作成します。

### 6. むすび

6月26日、宮城県倫理法人会故石川茂男会長のご葬儀に参列しました。そこには東北はもとより沖繩を含め全国から駆けつけた大勢の倫友の姿がありました。石巻は涙雨に煙り、市内各所でボランティアと自衛隊の方々が黙々と作業しておられました。

私たちは震災で亡くなられた方々の願いを受け止め、被災者をはじめ多くの人々の思いを受け止めます。そして、夏の暑さに負けず、真心こめて本物の活動をしましょう。

単会トピックス

# 倫理経営講演会各地で開催

## 思い出のアルバム

酒田市倫理法人会 相談役 菅原 勝安

昭和56年生れの私の娘が、相模原市の保育園で教わり「すまし顔」で歌っていました。秋の晴れた日曜日、信濃のコスモス街道をドライブした車中で、家族で何度も歌いました。会場でのCDは、日本経済が元気だった25年前に一気にタイムスリップさせました。そこに、涙をぬぐう65歳の会員の姿があった。

当時は、子供も小さく満たされないうちでも、希望に燃えながら生きていました。現在は日本全体がやせ細り、国の進むべき方向さ



え見えなくなっているところに、今度の大地震災です。講演会での「思い出のアルバム」は、四半世紀前へ引き戻しながら、次世代を担う人達への役割は果たしたのかと問うている。

丸山理事長は、壊れかけている日本にした大人達へ、心憎い演出をちりばめながら、日本創生へのメッセージを話された。講演会は終わったけど、日本創生は緒に付いたばかりだ。子供達へ「再び夢を描ける日本」にして引き渡す仕事は、「倫理法人会が主役を務めよ」と受け止めた。



単会の表彰は初めてと丸山理事長

## 理事長をお迎えして

酒田市倫理法人会 副会長 堀 豊明

設立7年目にして初めて「丸山敏秋理事長」をお迎えしての倫理経営講演会が、6月28日に希望ホールで盛大に開催されました。多くの方々よりご参加を頂き、感動の時間を共に過ごせたことを幸せに思っております。

私は、講演会終了後の「懇親会」を担当いたしました。

今回は例年と違い、震災へ配慮し全国的に懇親会等は自粛傾向にある中での運営を余儀なくされておりまして、酒田で丸山理事長をお迎えすることは、もう暫くは無いです。思い、歓迎の意を込めて「丸山敏秋理事長を囲む会」と銘打ち、

会員皆様にご案内いたしました。

また、その「囲む会」の中で、今年度の普及拡大の目標165社が達成できたことを記念し、当会の自作自演ではありますが、丸山理事長より安藤会長並びに佐藤優普及拡大委員長に表彰状を授与していただく演出ができたことは、今後の倫理運動の励みになると確信いたしました。



鈴木ゴム様の朝礼実演。



394社1231名のご来場。日本一の倫理経営講演会になりました。

## 平成23年度 倫理経営講演会を開催して

長井市倫理法人会 専任幹事 那須喜美子

水と緑と花の町長井の2番目の花「白つつじ祭り」真つ最中の風薫るさわやかな5月17日(火)、(社)倫理研究所、稲田博己名誉研究員をお迎えして、第四回目の倫理経営講演会をタスポークホテルにて369名のご参加を頂き盛会に開催することが出来ました。

今年には東日本大震災の影響を受け、モーニングセミナーも約1ヶ月程お休みをさせて頂いての開催という事で、準備時間も不足であった事と、震災後の心理的な状況を踏まえながらのチケット販売は、苦勞多きものでございました。しかしながらこの様な事態の時だからこそ、訪問する中にお互いの絆を求め何かを確信したような気がします。やはり倫理は強いと感じました。



参加頂いた皆様の心に応えるように、稲田名誉研究員の講演は素晴らしく、「トップを支える家庭力」と言うテーマで、長年の倫理人生で経験した奇跡の様な出来事や、自ら切り開いて来た運命の強さ、夫婦間の本音話しを詩に託した朗読は皆がうなづき泣き笑いのひとときでした。震災直後だっただけに、家族の絆がすべての原点である事を確信し、さわやかな余



韻が残る講演でした。又この度の講演会では初の朝礼実演もさせて頂き、練習を通して会員企業の新たな連帯感が生まれました。畑田県朝礼委員長から感想やコメントも頂戴し非常に盛り沢山な充実した倫理経営講演会でした。苦勞多き開催ではございましたが手ごたえある開催であった事をご報告申し上げます。最後に、鈴木県会長始め遠く酒田、鶴岡、県内各倫理法人会倫友の皆様のご参加に心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



## 寒河江市倫理経営講演会(5月19日(木))

### 創生の経営道十事業体験報告

広報委員長 海野晋

「なぜ倫理法人会に入会し、この会を勧めるのか？」この命題への答えがこの倫理経営講演会にあったと思います。大震災後、どうすればいいかわからなくなり目の前が真つ暗になった時、倫理法人会の示す考え方に落ち着きを取り戻し、やるべき事を思い出した人も多かったと思います。

今回、事業体験報告した藤本定明会長は、倫理法人会の特長である「万人幸福の葉」、「活力朝礼」、「先祖を敬う」、「清掃の徹底」、「倫理個人指導」を実践していくうちに、活路が見出せたと報告されました。「皆さん、はじめは無理やり誘われてそこから倫理法人会に入会





したはず。さらに、モーニングセミナー参加や活力朝礼の導入、個人指導を受けてみれば倫理の良さがもっとわかるはずだ。」と言われて、我々会員の更なる実践を合わせて促しました。

続いての戸田先生の話の中で、「日本は世界でも一番老舗の多い国。その中でも山形は老舗の数が日本一だ」という話が印象的でした。老舗が生き残るためには、お客様本位であることが大事で、近江商人のいう「三方よし：売り手よし、買い手よし、世間よし」という考え方が実践され、「利益第一主義」ではなく「信用と信頼第一主義」が基底であるべきだということでした。それこそが倫理経営の柱であり、倫理を学ぶことで、その「信用と信頼」が身につくのだと思われま

我々の企業も、ただ大きくすることだけに囚われるのではなく、継続的に存続するための活路を見出すべきだと感じたのでした。

## 新庄最上 倫理経営講演会

朝礼委員長 大山 哲



6月6日(月)に、ザ・リヴィントンにおいて、倫理経営講演会が開催されました。173社260名の参加を頂きました。開演までの待ち時間を利用して頂きまして、朝礼コンテストのブロック大会に出場します『新庄最上倫理法人会選拔選手』9名による活力朝礼の披露も兼ねて実演しましたが、緊張感があり、元気な朝礼を発表することができました。

講演は、埼玉県倫理

法人会・法人レクチャラーの清水良朗氏から「誰もが必ず越える山」と題して講話をして頂きました。ご自身の体験をもとに、涙、笑い、ユーモアを交えながらご両親との関係なども含めお話いただきました。

次に、中西浩(社) 倫理研究所普及本部長に、テーマ「トップを



支える家庭力」と題しましてご講演いただきました。いつも以上に迫力のある講演内容でした。経営の基盤にあるのはやはり家庭。トップ自身、夫婦円満でなければ、すべてうまくいかない。互いに、美点を見つけあい心を豊かにしていきましょう。と、ご教授頂きました。

普及拡大とも連動しながら、準備を進めてきましたが、講演会後に加入希望の問い合わせも何件もあり、大成功に終わった倫理講演会でした。又、ご参加いただきました県内の倫友の皆様、厚く御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。



## 南陽市 倫理経営講演会

広報委員長 渋谷尚哉

去る6月13日(月)に、本年度の「倫理経営講演会」が開催され、倫理経営を学ぶべく多くの受講者が南陽市宮内「熊野大社證誠殿」を訪れ、かくも盛大に開催されました。



はじめに南陽市倫理法人会、和田廣会長の力強い挨拶があり、講師先生の紹介の後、第一部として、熊田光伸氏による「感性と気づきの経営」と題した事業体験報告が行われました。

熊田氏は倫理との出会いから、学び、現在の経営で実践されている内容を、事細かくお話しされ、多くの受講者が相槌を打つ場面が見受けられました。なかでも、独特のコミュニケーション術や、後継者に関するお話には、ペンを走らせながら、興味深く聞きいつておられました。

その後休憩をはさみ、スケジュールは第二部へと移り「創生の経営道」を三好雅典参与よりご講演いただき、開始から結構な時間が経過するなかではありましたが、皆さんは参与の熱のこもった講演を、真剣に受講され、さらに倫理経営について学ぶことができたことでしょう。「実践することが大事」と幾度も話される参与に頷かされる皆さんでしたが、それぞれの明日からの生活に変化があることを期待せずにはられません。

会場には、次の経営を担うべく、多くの青年もおられ、小生を含め、そういった方々にとっても、とても有意義なものであったと思います。

聞くは易く、やるは難くではないですが、実践するとなると、なかなか難しいと思ってしまう、それがますます気持ちを実践から遠



ざけてしまうように思います。両氏ともにおっしゃっておられたのは、「思い立ったらすぐ」という言葉でした。やる気にはなるものの、では明日から、明後日から、今度からと、さらに遠ざかり、しまいには気持ちすらなくなってしまうことが多々あります。

この講演会をきっかけにと思う小生ではありませんが、この度の寄稿依頼があり、締め切り間際に綴る自分に反省です。

「すぐやる」を改めて南陽の地から強く発信いたします。



# 倫理経営企業の素顔

## 第3回

### 上山市倫理法人会

### 有限会社田島製作所

田島誠一 上山市倫理法人会会長の田島製作所様を訪問いたしました。田島会長は若さと行動力で単会を牽引する中心的存在として活躍。お名前の通りの純情で誠実で勤勉な会長のお人柄を愛する倫友と共に、常に先頭に立って上山市に倫理を普及させる運動に取り組んでおられます。表紙のお写真はパートナーである大場清助専務と共に、一部上場企業のお客様からいただいた、田島製作所様の



品質へのこだわりを讃える表彰額を手にしての撮影となりました。そこには理屈無用で良いものはどンドン自社に取り入れる実践をひたすら貫くお姿が写っています。

#### ●カードの唱和はただのお経？

朝礼は、最初に皆でラジオ体操をいたしまして、次に職場の教養を担当の社員さんが全部読みます。輪読はいたしません。読み終えた後にその担当が自ら感想を述べ、今日の心がけを斉唱いたします。その後、私が挨拶とハイの実習を行って、全体への連絡事項をお話して終了です。挨拶実習は「おはようございます」「ありがとございます」「こんにちは」の3点で行っております。

もともと朝礼はやっておりまして、「改善の心」と「7つのムダ」というカードを唱和するスタイルで続けておりました。確かに改善には必要なことなのですが、同じカードを毎日唱和していますと、ただのお経、唱え言葉になってしまふと感じていました。

#### ●秋山氏の言葉が転機に

私は上山市が設立した時に入会いたしました。が、しばらく朝礼はそのままの形で続けて



いました。そしてある時転機が訪れました。鶴岡市の秋山相談役から「活力朝礼をやっていると会社がつぶれない」とお聞きしたので。この「会社がつぶれない」という言葉が何よりも魅力のある言葉でした。これはずっと会社を長く続けることが社員さんを守ることに必要という一番大切なことに繋がってきます。この言葉によってこれまでの朝礼スタイルをやめて、活力朝礼に切り替えました。理由なんかありません。ただ、やってみようで始めたのです。



## ●朝礼の狙い

朝礼の狙いは、まず、目を覚ましてもらうこと、気持ちを切り替えてもらうこと、ここから仕事なのだとちゃんと意識してもらうことです。ただ、その場で今日すべきことが何

なのかを全員が理解している状況をつくれておりませんので、朝礼終了後に、必要な担当部署ごとに特定の間人が集まり、円陣を組んで今日すべきこと、発生したトラブルについてなど、いろんな問題の洗い出しを行っております。

当社の朝礼は、もしかしたら活力朝礼とは多少違うものなのかもしれません。全員でやり続けている中から、社員さんそれぞれが何かを感じて頂ければ良いですし、また、その感じ方はいろいろなのでしようが、このスタイルでやり続けていこうと思っています。



## ●現場の清掃と整理に朝の30分

私は人から教えられて良いと思ったことをどんどん取り入れていきます。例えば「仕事をしやすい環境をその日の朝に整えよう」は素晴らしい考えだと思います。始めてからもう2年になりますが、朝礼の後に「環境整備」ということで30分間片付けや掃除を全員で行います。これは仕事が忙しい時を除いてほぼ毎日です。もちろん例外もあります。今日は「環境整備」をしないで作業するという報告があればそれを認めます。また、残業する方もおります。

この30分が勿体ないと思われるかもしれませんが、これをやってみた結果、社員さんの作業時間が30分少なくなったために、残業がどんどん増えたり、納期遅れをたくさん出してしまおうというような困った状況にはなりませんでした。仕事がやりづらい環境の中で、その30分をも使って仕事をするだけのことだと判かったのです。また、仕事が終わってからの10分間の掃除を定めているのですが、草取りなども含めた工場全体の環境整備を考えた場合、10分というのはとてもできるような時間ではないというのも理由のひとつでした。

## ●品質方針に0.01ピーエムを掲げる

この賞状（表紙参照）はお客様に当社製品



の品質の良さを認めて頂いた証です。自慢するわけではありませんが、当社がお客様にお渡しする製品の品質はとても良いものだと思います。高品質な製品づくりが当社の伝統なのです。

当社は多品種少量生産の会社なのですが、分かりやすく言いますと、例えば100個の作った製品中に1個だけどうしても違うというような部分があつてそれが無くせなかつたのです。それをいくらかでも少なくしようと研究し続けてきて、時には、それに対するやり方をお客様や他の会社から教えていただいたりもして、数年前に年間不良率が7ピーエム（100万個の製品の中で不良が7個）を達成することができました。それでも



7ピーエムは0ピーエムでは無いわけです。0ピーエムが達成できないではなく、全てにおいて0ピーエムであればいいと思い、努力している最中です。

## ●納期意識にも変化が起きた

こうした品質にこだわる伝統的な部分とは別に、納期はきちんと守ります。ちゃんとした品質のものを納期通りにきちんと納めてくれるということが一番お客様が求めていることですし、評価してくださる部分だと思えます。それが次の仕事につながるのだと信じて仕事をしています。

品質を守るために一所懸命になってくれる社員さんがいて、他方、納期を守ることに一

所懸命になってくれる社員さんがいます。そして、その間に製造する部門の社員さんたちがいます。製造する社員さんたちは、徹底的に品質にこだわりながらも、いつまで納めるかに対しての意識が随分高くなってきたと思います。このことは、職場の教養を使った朝礼を行っている成果かもしれません。社員さんの仕事に対する意識がレベルアップしていることを感じています。

### ●ルールを守る習慣は全てに通じる

当社は積極的に環境保全に努めています。省エネ、省資源を意識した生産活動を行うために「エコアクション21」を取得し、環境方針を作成して全社員に周知徹底しています。具体的な活動として、計画的に電気使用量を少なくする、ゴミを分別する、社用車はできるだけ燃費の良い車に変える、機械を使う時間をなるべく短縮する製造方法を考えることなどを実施しています。これらを実施した効果として、ルールをひとつひとつ守っていくことの大切さを社員さんから認識していただけるようになりました。

出すゴミの量がどれくらいあるのかが解ったりとか、分別することによって、再生可能な紙なのか、焼却するしかない紙なのかとか、ビニールですと、固形燃料にできるものなのか否かとか、資源なのかゴミなのかという分け方ができるようになりましたが、こう



した環境ルールを守る習慣は、品質や納期を守る習慣と根本は同じかもしれません。何でもそうですが、社員さんがルールを守れないのは、守れない環境にあるからだという考えに立つと、社長がやるべきアプローチが変わってきます。やりづらいものはルールとして絶対に社員さんに定着させません。

### ●社長は語れ！ではなくて聞け！

社員さんは10人100色！です。そんな社員さんの思いを聞いて、聞いて、聞きまくるのが社長の仕事だと思っています。これまで

企業のリーダーとしての条件とは何かということを経験豊富な勉強会に出て学んでまいりましたが、それらは現実と理想のギャップを埋めるために皆を導くことについての学びでした。全然うまくいきませんでした。逆だったのです。語れ！ではなくて聞け！だったので。社員さんにそんなギャップを埋めたい思いを語ることで、社員さんの思いをきちんと聞くことがリーダーとしての条件なのだと富士研で気付かされました。聞いて、聞いて、聞きまくって、初めて、私の言うことを聞いてくれる心の準備が社員さんにできてくるものなのです。



# 女性倫理講演会



山形県倫理法人会  
女性委員長 菅野美奈子



7月11日(月)、女性倫理講演会を開催しました。講師はNPO法人スペシャルオリピックス日本 名誉会長 細川佳代子氏。スペシャルオリピックス(SO)とは、知的発達障害のある人たちに様々なスポーツトレーニングと、その成果の発表の場である競技会を、年間を通じ提供している国際的なスポーツ組織です。日本ではその認知度が低く、偏見もまだ多いようです。講演のテーマは『インクルージョン〜共生社会をめざして〜』、インクルージョンとは、排除される人がいない、すべての人を包み込む社会。誰もが必ず持っている大切な素晴らしいもの「勿体」(もったい)をそれぞれが発揮できるように、人は互いに支え合っていくのです。2015年にインクルージョン、共生社会の実現という目標に向けて、日々活動されている細川氏の姿に多くのことを学びました。

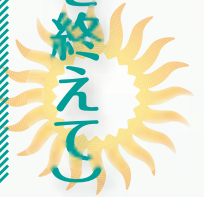
細川氏は、少し難しめの目標を掲げるのが好きだそうです。そして努力するという、倫理の中でもいつも起こっていることですね。今回、多くの方に支えられ、150名を超える方に参加いただきました。当初の企画段階では、100名の参加者を想定していたのですが、目標を150名とし、心の奥底で少し高い目標を掲げてしまった、と思っていました。でも同時に、目標を立てた以上、そこに向かって進むしかない、やれないことはない、できる、という妙な自信と力が湧いてきました。周りの方のサポートがあったからです。当日まで女性委員会の皆さんや協力して下さる方々と力を合わせて頑張ってまいりました。皆さんにこの場を借りて感謝申し上げます。多くの方に足を運んでいただき、「素晴らしいかった、よかった」というお言葉を頂戴しました。一般の参加者も40名以上でしたので、モーニングセミナーで行う万人幸福の栞輪読なども一言説明を加え、実演いたしました。講演では、SOの競技の様子も紹介され、アスリート(選手)の頑張り、家族の思い、そして心から応援する会場の人々の行動に、その臨場感あるお話に涙を抑えきれない人が多かったと思います。

細川氏からは、心に残るたくさんのお話をいただきました。すべてをご紹介できないのが残念ですが、少しでもご紹介したいと思います。SOでは、「一人に勝つことではなく、昨日の自分に勝つこと」、人と比べるのではない、努力や過程を評価してくれるのです。そして、県鈴木会長の挨拶にも、SOと倫理の共通する部分についてお話がありました。が、「支え合い、共に生きていく社会」は、壊れかけた日本の創生を目指す倫理法人会、私たちの思いと共通するところがあります。「明確なビジョン(目標)を持つこと、ミッション(使命感)を持つこと、そしてアクション(行動)を起こす、それにはパッション(情熱)が必要」と困難があっても立ち向かっていく、様々な活動をパワフルにこなす細川氏の力強い言葉と笑顔は、女性会員はもとより、多くの方に感動を与えるものでした。この感動を力に替え、女性委員会の活動が、今後さらに飛躍できるのではと思います。



# MS研修会総括

## 3ブロック研修を終えて



山形県倫理法人会  
MS委員長 加藤 眞佐夫

朝の達人になるために。経営者として必要不可欠な判断力や決断力、さらにそれらを支える感性を磨くのに最も効果的なのが「朝起き」と言われております。社員全員がセブンスアクトで即戦力になるためにも、経営のトップが「朝型」の生活を実践し、且つ深化することだと思えます。

モーニングセミナー委員会はMSの質的向上、量的充実が倫理法人会発展の鍵であるとして、社団法人倫理研究所 法人局 川又久 萬 北海道・東北副方面長の指導のもとに、マニュアルによる統一されたモーニングセミナーと役員朝礼研修を事業計画の中心に位置づけました。

最初は3ブロックとは別に平成二十二年九月十七日金曜日、各単会役員を対象に上山温泉月岡ホテルにて行いました。その後、平成二十二年十二月十日金曜日、置賜ブロックMS研修会を熊野大社 證誠殿にて。平成二十三年三月十一日金曜日、村山ブロックM

S研修会を天童市ほほえみの宿滝の湯にて。平成二十三年六月十一日土曜日、庄内・最上ブロックMS研修会をニューグランドホテル新庄で行いました。

経営者モーニングセミナーマニュアルの熟読と解説から研修に入っていく訳ですが、大変に重要な内容になっております。

次にマニュアルに忠実にモーニングセミナーを実際に行う訳ですが、会場の設営を一念にチェックします。マニュアルに書いてはありますが、講堂内が点と線を守り非日常的雰囲気を感じられるくらいであれば大変に素晴らしいと思えました。最も重要なことは司会進行役の役回りとチェックリーダーの存在であると確信いたしました。

特に司会進行役は当日の内容を把握し、てきぱきとスピーディーに進行する。そのためにも役割担当者の出欠席は前日迄には必ず確認しておく。また、進行要領用紙に前日迄に必ず記入しておく（遠方の方であまり早く来れない人もいる）。準備に80%の気づかいをする必要があると思えます。

また、チェックリーダー（MS委員長）のチェックを受けより良い経営者モーニングセミナーを追及することも非常に大切なことと確信いたしました。

繰り返しになりますが、進行係が重要な役回りである。各単会のMS委員長はマニュアルをよく読み、他の単会の役員朝礼、経営者

MSにもできるだけ参加して自分の所属する単会にてチェックリーダーを務めて欲しい。重点事項としては、「気をつけ！」の姿勢の徹底。「礼」（お辞儀・あいさつ）の動作一とくに揃えることと元気な声。「ハイ！」の実習での声と気合。「連絡事項」の内容の明確化。①役員朝礼出席者への連絡事項②MS本番での「連絡事項」の内容の確認。「倫理法人会スローガン斉唱」のリーダー（姿勢・声・リズム・気合）。など重点事項を教えてくださいました。私自身が一番勉強になったと思っております。

最後に皆様にご報告から御礼申し上げます。三月十一日、金曜日、二時四十六分東日本大震災の発生時ちょうどMSの実習に入ったばかりのときでした、本当に驚きました。

参加いただいたみなさんお疲れ様でした。そして、その後の委員会活動、震災の厳しい影響の中、本当にお世話になりました。ありがとうございます。ございました。

そして、ありがとうございます。合掌



# 「第3回 朝礼コンテスト」



山形県倫理法人会  
朝礼委員長 畑田 一志

第一回朝礼委員会での事。酒田のS委員からこの度は生で朝礼コンテストをやりましょうとのご提案をいただき、今回の第3回朝礼コンテストが実現されました。

山形県に元気な企業を増やしていこう。活力朝礼を実施していない会員企業様にぜひ導入していただくきっかけを創ろう。そして会員企業同士の草の根の交流も計っていこうとの目的を持ち、望んで参りました。

段取りを進めていくうちに、正直これは大変なエネルギーが必要だということを痛感してまいりました。それは朝礼委員会ということではなく、各単会の皆様にも多大なるご負担をお掛けすることになるんだということが、日が経つにつれ増幅してまいりました。正直、不安と申し訳なさを感じる時もありました。そんなある日、新庄最上倫理法人会の倫理経営講演会の開催時間前に行われた度胸試しの、新庄最上チームの練習披露を目の当たりにした時に、やって良かったんだと実感しました。真剣に取り組んでこられたであろうその姿には感動すら覚ええました。そして迎えた6月7日の置賜ブロック大



会に臨んだ時に、それは確信に変わりました。長井市、南陽市、米沢市の各単会チームのひたむきな朝礼披露。心に響くものがありました。審査員の得点も激戦の三者三様。結果米沢市チームが県大会に駒を進めました。そして6月10日には村山ブロック大会。林のごとくビデオカメラが乱立し、関心の高さを感じました。激戦区の5単会チームによる朝礼披露は、指導にあたられた方の目頭が熱くなるほど、チームとして困難を乗り越え、絆が深まってこられたかに違いありません。激戦区にふさわしく僅差により山形市倫理法人会チームが代表権を獲得いたしました。6月17日には最後の庄内最上ブロック大会が開催され、こちらも僅差で新庄最上チームが激戦を制しました。

ブロック大会の直前、県大会のトロフィーは何にしようかと相談を持ちかけていた所から、ある提案がありました。それこそが『おはよう像』でありました。オスカー像にも掛け、イメージ図がやけに興味をそそります。よしっ、これだということで製作に掛っていただくようお願いしたものが、何時になっ

ても出来上がってきませんでした。ようやく形が見えてきたのが県大会の10日前。しかもちよっと軽過ぎ？



急遽材質を一部変更し急ピッチで製作再開。今だからお話しできますが、出来上がったのは県大会当日の午前10時前。結構スリルを味わいました。しかしながら出来栄は素晴らしく、山形県倫理法人会オリジナルの像ができたことで来年以降の朝礼コンテストにも弾みがつくのではないのでしょうか。

さて、満を持して迎えた県大会。リハーサルを拝見して、ブロック大会からまた進化していることに驚きました。人の可能性は無限であると感じるとともに、ここに至るまでの各チームの努力に敬意をはらわずにはおられません。またしても僅差の結果になるだろうと、この時点で容易に推測することが出来ました。置賜ブロック代表 米沢市倫理法人会石原プロモーション(株)様は重厚感の中にも細やかな部分にも気を配った朝礼を上演して下さいました。庄内最上ブロック代表 新庄最上倫理法人会愛を取持つ(株)様は丁寧なアイコンタクトと唯一笑顔での朝礼に臨んで下さいました。村山ブロック代表 山形市倫理法人会 丸山社中(株)様は、リズム感、スピード感に溢れ、気品漂う朝礼を披露して下さいました。

審査も難しく予想通りの僅差で、第3回朝礼

コンテスト県大会を制したのは、山形市倫理法人会チームでありました。無事『おはよう像』を手にし、満面の笑みが溢れ、達成感をみんなに分ち合っておられた姿が印象的でした。しかしながら、新庄最上、米沢チームも精一杯取り組んでいたとき、最優秀と同じ位の達成感を味わっていたように見えました。各ブロック大会、県大会を通し、この実演に点数をつけなければならぬ事が、申し訳なく思えてきました。その位皆様の頑張りから、言葉にならない位の感動を与えていただいたからです。選手の皆様、ご指導にあたられた皆様、感動をありがとうございます。結果として残念だったチームも、是非次のチャンスを活かしていただきたいものです。また、今回得たものを会社に持ちかえり、アクションが起きることを切に希望いたします。

最後に、今大会を進めて行くにあたり、ご講話を快くお引き受けいただきました秋山前朝礼委員長、山形市蔵王倫理法人会 池田会長、鶴岡市倫理法人会 伊藤会長、小林朝礼委員長に心から感謝申し上げます。そして鈴木会長はじめ、県副会長、県役員の皆様、各単会の会長様はじめ会員の皆様、そして朝礼委員会の皆様、事務局 斎藤様に絶大なご協力を賜りました事を心から御礼申し上げます。斎藤様の細やかな心配りには本当に助けていただきました。前盛さんの県大会の進行も抜群でした。皆様心から感謝申し上げます。

特別  
寄稿

## モーニングセミナー 500回を迎えて

米沢市倫理法人会 幹事 中村 恵一



この度、500回目のモーニングセミナーを設立日と同じ日、5月19日に126名の参加のもと開催することができました。大きな感動をいただき感謝申し上げます。

また、米沢市倫理法人会も年月とともに、新会員の割合が増えており設立当初を知らない方もあり、設立当初に思いを馳せたいと思います。

米沢のモーニングセミナーは、平成12年5月19日の設立式典の3ヶ月も前から始まりました。2月の米沢は大雪で長靴が絶対必要で、開始時間の6時30分は真っ暗、こんな時に参加者がいるのだろうかと思いつながら会場に行くと、山形から10名の方が笑顔で迎えてくれました。その熱意に対して、誠に不躰ながら不思議な思いを持ってしまったのですが、全国からよりすぐりの講師をお呼びいただいております。セミナーの内容はすばらしく今もシッカリ心に刻まれております。感謝申し上げます。

そして、受講する姿勢も教えて頂きました。それは、自分の尺度を捨てることでした。人は総じて自分の尺度で他人を判断しがちですが、自分以外はすべて先生という姿勢で臨めば、すばらしい講師はすばらしく、一見そうでないと感じる講師も実はすばらしいと思えるようになるというものです。

人は年を重ねるほどに我儘になりやすく、権力があるほど、社会的地位がある人ほど傲慢になりやすいものかもしれません。気がつかないうちに、自分だけの尺度で物事を判断してしまい、いつのまにか裸の王様になってしまふ。そんな怖さを感じることがあります。

倫理は若い人が勉強すればよい、と年配の方から言われることがあります。心にオシャレをした元気でステキな朗人になるために、モーニングセミナーは役に立つと思います。

また、姿勢を正し、元氣な挨拶をする習慣は、人をつくり、事業を残し、財を残す上でも絶対必要条件です。また、モーニングセミナーは参加者が多いほどパワーが共鳴するので、会員企業でほとんど参加したことはない方には、切にお勧めしたいと思います。



# 第19回 ブナ文化フォーラム

7月9日10日、新庄最上主管で開催された第19回ブナ文化フォーラムは最上地方の原始の森に息づく巨木に出会う素晴らしい旅でした。

山は登るものですが、今回は企画の中に入るイベントも。行程1時間の最上川船下りです。船頭さんの軽妙なアナウンスと素晴らしい歌でも楽しめました。川風はともおだやかで涼しく、快適でした。景観が季節によって変わるので、船下りは年に何度も楽しめます。この秋は特に最高でしょう。

樹齢1000年を超える天然杉の巨木が残る幻想の森散策。ウッドチップが敷き詰められ、原始の森を手軽に楽しめます。ここに自生する天然杉は太いものは幹周りが15mもあり、何本にも枝分かれしてまっすぐ伸びません。

お昼は庄司そば屋さん。漬物とニシンでお酒やビールがすすみます。おいしい板そばもいただきました。そして、女甕(めごしき)山手前の大かつらの木。ブナの原生林を通り、途中クマのいることを示すひっかき傷や、倒された標識などと遭遇。まさしく動物界と人間界の境です。大清水という湧水地にはマメシジミが生息。水温8度。泉なのでもちろん飲めます。ここは修験道があったそうで、室町の頃には数千人の行者がいたとか。発掘で銅鏡や古銭、お経の入った筒などが見つかったりしています。そんな往時の面影も、ブナの枯葉の堆積によって全て消失してしまいました。女甕山の絶壁には入ると必ず祟りがある祠があり、中は大きい洞窟になっていた！そうです。

シェーネスハイムに着いて入浴と楽しい懇親会。山菜や岩魚のお刺身など山の幸をたくさんいただいてその日は就寝。翌朝の特別モーニングセミナーは自然観察指導員の大類貞夫氏より魅力あふれる最上の自然について講話をしていただきました。

企画して下さいました新庄最上倫理法人会に大変感謝申し上げます。ありがとうございました。



## 編集後記

山形県倫理法人会  
広報委員長 土屋 和浩

ある会員様より、24号の倫理経営企業の素顔(株式会社アイ・タックル様)の文中に一部不適切な表現があるとのご指摘がございました。ご指摘のあった部分は、水沢様の話された内容を、私が編集した時にあえてぼかした表現にさせていただいたもので、これは偏に編集人である私の責に起因するものです。そのご主張は的を得たものでした。ご指摘をいただいた会員様にお詫び申し上げます。申し訳ありませんでした。

倫理について長い時間お話いただいた後に写真撮影をしていつも思うのですが、皆さん決まって晴れやかですっきりとした優しい表情をなさいます。私にはそれがとても不思議なのですが、どうしてなのでしょうね？



PC URL  
<http://www.yamagata-rinri.net/>  
山形 倫理

携帯 URL  
<http://www.yamagata-rinri.net/m/>